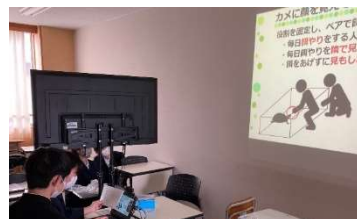


福井県合同課題研究発表会 参加報告

- ◇期 日 令和4年3月13日(日)
- ◇場 所 福井県立高志高等学校(本会場)
本校探究ゼミ室(オンライン参加)
- ◇参加者 SS生物部生徒8名
- ◇指導者 SS生物部顧問 真野佳余先生



福井県合同課題研究発表会とは、主に福井県内の学校で課題研究に取り組む生徒を対象とした研究発表の場である。例年は「ふくいサイエンスフェスタ」と同日同会場で行われており、午前中に著名な科学者の方による講演を聞き、午後から生徒が研究発表を行うという形になっている。しかし、今年度は昨年度と同様講演会が中止となり、また、新型コロナウイルス予防の為、全ての分科会発表の部がZOOMを用いたオンライン開催となった。



本校からは4班がそれぞれ「共生ハゼとテッポウエビ類の共生関係について part2」、「いたち川における環境DNAを用いたトミヨの生育調査」、「カメの学習能力について」、「米ぬかはバイオエタノールの材料になりうるか」という題で研究発表を行った。



昨年度から研究発表会の多くがオンラインで行われており、特に2年生の部員には慣れが感じられた。とはいえ前大会でトラブルがあったことから機器の扱いに不安があったが、何事もなく発表を終えることが出来た。聞き手の反応を窺うことができないため、話す速度や抑揚等を意識して話す練習にもなったと感じる。質疑応答についても、質問の趣旨を音声のみからの的確に把握し、即座に、かつ、的確に答えることに苦心した。研究を生業としている大学教授の方々からの鋭い指摘はもちろんのこと、専門的知識をもたない他の発表者からの質問にも気付かされることが多くあった。今後の研究・発表に生かそうと思う。同じ生物分野とはいえ、他校の発表の多くが私たちのテーマとは大きく異なっていて、興味深かった。中には前年度の同発表会でも聴講したテーマを更に発展させた研究を行っている班もあり、前回からの進展を感じられて面白かった。



発表の手段が例年と異なるなかでの発表だったが、今後に生かし得る学びを多く得た。積極的に質問し合うことで、他の発表者とも高め合うことができたと思う。また、オンラインでの発表については、今後も同様の機会があると考えられるため、部員全員が情報機器を十分に扱える技能を習得しておくことが必要だと感じた。研究発表と聴講とを経験できる貴重な機会であり、参加部員全員にとってそれぞれに有意義な1日となった。

(37H 伊藤葵)